

ヴォーリス記念館

ヴォーリス記念館はアメリカ生まれの建築家、伝道師、実業家であり、近江八幡に住んでいたウィリアム・メルル・ヴォーリス（1880-1964）の旧邸宅である。木造 2 階建てのこの建物は、ヴォーリス自身が設計したもので、当初は幼稚園の教員寮として使用する予定だったが、建設中に自宅とすることを決めたという。1931 年に完成し、1964 年に亡くなるまで、ヴォーリスは妻の満喜子と二人でこの建物に住んでいた。下見板張りの外壁、切妻屋根、煙突など、西洋風でシンプルな外観が特徴的である。内部は洋風だが、畳のある和室もある。現在はヴォーリスの生涯とその遺産を紹介する博物館として、写真や遺品が展示されており、建物は滋賀県の文化財に指定されている。見学は予約制。